

第5 聖霊に力づけられてあかしする

【暗唱聖句】

「祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした」
使徒言行録 4 章 31 節

【日曜日・イエスと聖霊の約束】

「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来る
とき、その方がわたしについて証しをなさるはずである」ヨハネ 15 章 26 節

聖霊の大きな役割の一つは、イエス様のことがわかるようにして下さることです。真理の霊という言葉が使われている通り、イエス様は真理です。聖霊の働きがなければイエス様のことがわかりませんし、逆にイエス様のことがよくわかるときは、聖霊は働いている証拠です。聖霊がイエス様を証することで、最終的にイエス様のもとに人々を導きます。

「その方が来れば、罪について、義について、また裁きについて、世の誤りを明らかにする」ヨハネ 16 章 8 節
聖霊のもう一つの役割は、「罪について、義について、裁きについて、世の誤りを明らかに」します。多くの人々が罪の本質が分からず、何が本当に正しいことなのかが分からず、勘違いをしています。そして、神様の裁きがあることも知りません。永遠の命に係わるそれらのことが、聖霊によって明らかにされるのです。罪も義も裁きもイエス様に関わることで、イエス様が分からなければ分かりません。聖霊が働くとき、目が開かれて多くのことが明らかになってきます。

【月曜日・力づけられた教会】

使徒言行録は「聖霊言行録」と言われるように、聖霊がどのように初代教会に影響を与え、成長発展を導いたのかの証となっています。2 章 41 節では、「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」と記録されており、また 4 章 4 節では、「二人の語った言葉を聞いて信じた人は多く、男の数が五千人ほどになった」と記録されています。イエス様が 5 千人の人々にパンをお与えになった物語が福音書に出てきますが、それを同じ数であることから、イエス様がなしで弟子たちだけでも、同じだけの数の人々が集まってきて、次々に救われていったことがわかります。このような働きは聖霊の働きのなしには考えられません。そして、「その数はますます増えていった」（5 章 14 節）のです。

また、使徒たちは福音を述べ伝えたために、「鞭で打たれ、イエスの名によって話してはならないと命じ」（使徒 5:40）られたにも関わらず、「イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び」（使徒 5:41）、「毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせ」（使徒 5:42）のでした。このような弟子たちの勇気も聖霊から来ています。初代教会がこれほど急速に発展していったのは、聖霊の働きなのです。

【火曜日・聖霊とあかし】

「ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った」使徒 7:55, 56

聖霊は教会全体だけでなく、個人にも大きく働きます。教会の最初の殉教者として知られているステファノが石に打たれて殉教していくとき、聖霊に満たされたと書かれています。神様は死に至るような恐ろしい迫害の中で、聖霊で満たして下さることで、その恐怖を乗り越えさせて下さったのです。聖霊に満たされたステファノが天を見つめていると、天が開いて、何と神様の栄光と神様の右に立っておられるイエス様が見えたのです。これがステファノをどれほど励ましたことか想像に難しくありません。信仰のゆえの迫害を恐れてしまう人もいますが、聖霊がそのとき勇気と奇跡を見せて下さることでしょう。

「すると、“霊”がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒に行け」と言った」使徒言行録 8 章 29 節

フィリポがエチオピアの宦官を導いた出来事において、聖霊の後押しがあったことがわかります。「行け」「語れ」と、福音を述べ伝えるべき方やタイミング、方法なども聖霊が教えてくださいます。

「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めた」使徒 15：28
教会で何かを決めるときも、聖霊が働いています。使徒たちはその自覚があったことがわかります。

「彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられた」使徒 16:6

それが尊い神様の働きであったとしても、御心ではない場合は聖霊が禁じられることがあります。やろうと思っていた伝道が、何らかの事情でうまく進めていくことができなくなってしまった場合、聖霊がストップさせた可能性があります。

【水曜日・聖霊・御言葉・あかし】

「祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした」
使徒言行録 4 章 31 節

聖霊が降って大いなる働きをしたのは使徒たちだけではありません。教会が一同が集まって祈っていると、地震がお子会って、そこに集まっていた人たちが皆聖霊に満たされて、大胆に神様の言葉を語りだしました。迫害の中で散らされても、彼らは散されたところどころで福音を告げ知らせながら歩きました（使徒 8:4）。

「預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです」ペトロの手紙二 1 章 21 節

たとえ一信徒が語る言葉であったとしても、聖霊に導かれたものであるなら、それは力があります。自分の意志に基づいて語るのではなく、神様の言葉を語っているからです。そして、その「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分け」（ヘブライ人への手紙 4 章 12 節）ますので、人を変える力があります。

【木曜日・人生を変える聖霊の力】

「ティアティアラ市出身の紫布を商う人で神をあがめるリディアという婦人も話を聞いていたが、主が彼女の心を開かれたので彼女はパウロの話に注意深く聞いた。そして彼女も家族の者も洗礼を受けた…」使徒 16:14, 15

「看守は、明かりを持って来させて牢の中に飛び込み、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し、二人を外へ連れ出して言った。「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。」使徒 16:29、30

「彼について行って信仰に入った者も、何人かいた。その中にはアレオパゴスの議員ディオニシオ、またダマリスという婦人やその他の人々もいた」使徒 17:34

「会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた」使徒言行録 18 章 8 節

使徒言行録には、様々な階級の人たちが次々に救われていった様子がわかります。リディアは紫布を商う裕福な女性実業家でした。フィリピの看守はローマの中流階級でした。さらに裁判における法的評議会の一員のアレオパゴスの議員や会堂長など社会的に地位の高い人や宗教的指導者も救われていきました。このように聖霊が働くとき、貧しい人々だけではなく、裕福な人にも社会的地位のある人も、ユダヤ教の指導者まで、イエス・キリストが救い主だとわかり、信仰を持つようになっていったのでした。どのような人でも聖霊が働いたとき、神様を信じる可能性があるということです。